

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月28日現在

機関番号：32641  
 研究種目：基盤研究（B）  
 研究期間：2008～2011  
 課題番号：20320106  
 研究課題名（和文） 室町期～明治維新时期丹波国山国地域における百姓と天皇の関係に関する研究  
 研究課題名（英文） The Relation between Peasants and Tenno(天皇) at Yamaguni(山国) Area in the Province of Tanba during the Muromachi Period and the Meiji Restoration  
 研究代表者  
 坂田 聡（SAKATA SATOSHI）  
 中央大学・文学部・教授  
 研究者番号：20235154

## 研究成果の概要（和文）：

本研究では、①民衆にとって、天皇とはどのような存在であったか、②民衆は天皇の権威をいかなる形で利用し、地域社会の秩序を構築したか、という二つの課題について、中世・近世を通じて天皇家との結びつきが強かった丹波国山国地域をフィールドにとり、室町期から明治維新时期に至る500年間にわたって通時的に考察した。具体的には、(ア)「由緒書」と家伝承、(イ)「口宣案」と官途成り、(ウ)公事、(エ)名主役、(オ)山国隊、という五つのテーマを検討した上で、その研究成果を統合し、①と②に対する回答を導き出した。

## 研究成果の概要（英文）：

The Yamaguni area in the province of Tanba was intimately related to the Imperial Family during the medieval and early modern periods. So, we made a diachronic study of this area from the Muromachi period to the Meiji restoration. The focus of this study is on the following two topics:

1. For the peasants, what was the significance of the existence of tenno?
2. How did they take advantage of tenno to establish their public order?

## 交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	2,500,000	750,000	3,250,000
2009年度	1,800,000	540,000	2,340,000
2010年度	2,100,000	630,000	2,730,000
2011年度	1,600,000	480,000	2,080,000
年度			
総計	8,000,000	2,400,000	10,400,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・日本史

キーワード：日本史、百姓、天皇制、山国荘

## 1. 研究開始当初の背景

研究代表者の坂田は、これまで長年にわたり、山国地域の古文書調査を続けてきたが、調査を進める中で、どこの家や神社にも天皇・朝廷との関係を示す文書が多数残存していることに気づいた。しかも、同地には中世後期から近現代にかけての文書が連続して

残されており、これらの文書を活用して、百姓と天皇の関係性について通時的に考察することも十分に可能なため、そのメリットを生かすべく、本研究を思い立った。

本研究に関わる先行研究としては、網野善彦の仕事があげられる。中世や近世の天皇をもって、古代律令制の残存物とみなす通説に

異を唱えた網野は、天皇制を今日まで存続させた民衆的な基盤を解明することの重要性を説いた。そして、中世においては農業以外の生業に従事していた非農業民に着目し、山野河海に対する天皇の本源的な支配権のもと、こうした場で活動する非農業民と天皇との結びつきの強さが、中世の天皇を支える基盤となったと主張した。

上述の網野の仕事は非常にユニークな研究であるが、天皇制存続の民衆的基盤の解明といいながら、直接の研究対象は非農業民に向けられており、人口の圧倒的多数を占める農民と天皇の関係をまったく論じていない点に疑問が残った。

そこで、本研究では中世・近世を通じて天皇家との結びつきが強かった丹波国山国地域をフィールドにとり、中世のみならず、近世、さらには明治維新时期にまで時代の範囲を広げた上で、同地の百姓（農民）と天皇の関係について、考察することにした。

具体的には、(1) 民衆にとって天皇・朝廷とはどのような存在であったか、(2) 民衆は天皇の権威をいかなる形で利用し、地域社会の秩序を構築したか、という二つの課題について通時的に考察することにより、民衆の意識や行動が天皇の地位の存続に与えた影響の解明をめざした。

## 2. 研究の目的

### (1) 山国地域の歴史的特色

山国地域は中世のみならず、近世においても天皇家や朝廷との結びつきが強かった点で、一見特殊な地域に見えながら、実のところは本研究を進めるにあたり、きわめて好都合なフィールドだといえる。

室町時代の山国荘住民は、年貢のほか、さまざまな公事を天皇家に上納していたが、近世江戸時代に至っても、旗本領となった村も含めて、山国郷を構成する村々の多くは、朝廷に大堰川で獲れた鮎や、大嘗祭の際の材木を名主役として献上しており、天皇家との関係は幕末まで途絶えなかった。

また、同地の総鎮守山国神社では宮座が営まれたが、宮座に結集する各村の上層百姓達は、「古家撰伝集」と呼ばれる由緒書を作って、天皇家との結びつきを誇示する家伝承をPRしたり、天皇から実際に「口宣案」と呼ばれる辞令書を交付されて朝廷の下級官職に就き（もちろん、名目だけだが）、それをもとに、宮座で官途成りを行ったり、近世には天皇家に対して名主役を務めたりすることによって、村社会内部で特権的な地位を維持し続けようとする。目論んだ。

さらに、幕末の戊辰戦争時、同地においては山国神社の宮座に結集する上層農民を中心にして、中下層農民までも巻き込み、山国隊と呼ばれる農兵隊が組織されたが、この山

国隊は新政府軍の一員として、遠く東北地方まで転戦した。

こうした事実を踏まえると、山国地域の上層農民は、戦国時代以降明治維新时期に至るまで一貫して、宮座の成員＝名主家という家格を維持し、天皇家に対する奉仕者という立場に立ち続けることによって、自らの特権を保持しようとしたのではないかと想定が可能になってくる。

これを一般化すれば、農民のレベルで家制度が確立した室町期以降、上層農民は自らの家の家格を維持するため、天皇に収斂する公的秩序に積極的に連なり、その秩序を地域社会内部における自らの特権的地位の維持に利用したこと、そして、こうした行為こそが、結果的に天皇の存在を下支えする役割をはたしたことの2点を指摘することができる。

本研究の研究目的は、上述の2点についての実証的な検討を行うことによって、中世・近世を通じて、天皇の地位が存続し、結果としてそれが、近代天皇制国家成立の前提となった理由を、民衆史の視点から解明することにある。

### (2) 本研究の課題

以上を踏まえ、本研究においてはまずもって、次の5点について検討を加えた。

#### ① 「由緒書」と家伝承

「古家撰伝集」をはじめとした上層百姓家の「由緒書」を素材にして、家伝承で語られている天皇・朝廷との関係性の特質や、その歴史的な変遷について

#### ② 「口宣案」と官途成り

個々の上層百姓家に残る「口宣案」に記されている官職名と、彼らが宮座で官途成りをして名のつた官途名との異同やその理由、官途成りの実態について

#### ③ 公事（中世）

『お湯殿の上日記』、『後奈良天皇日記』、『康富記』など、天皇や女官、公家らの日記に見える、山国郷の公事の実態や、室町期における天皇家の経済状況について

#### ④ 名主役（近世）

名主役の実態や、名主役をめぐる名主百姓と非名主百姓の対立について

#### ⑤ 山国隊

幕末期における山国百姓の天皇観、山国隊結成時をめぐる百姓内部での対立関係、明治期以降の山国隊検証運動の実態について

その上で、①～⑤の個別テーマに関する研

研究成果を統合し、民衆にとって天皇・朝廷とはどのような存在であったか、また、民衆は天皇の権威をいかなる形で利用して、地域社会の秩序を構築したか—という本研究の課題に迫ることを目指した。

### 3. 研究の方法

本研究の方法の大きな柱としては、現地調査の作業と、その成果にもとづく分析作業があげられるが、このうち、前半の2年（平成20年度、平成21年度）は調査に、後半の2年（平成22年度、平成23年度）は分析に力を置いて、作業を進めた。

具体的には、(1)のごとき研究体制をとって、(2)のごとき作業を行った。

<平成20年度・平成21年度>

#### (1) 研究体制

- ①坂田 聡（研究代表者、後掲）  
全体統括者、調査部門総括責任者
- ②藪部寿樹（研究分担者、後掲）  
古文書撮影責任者
- ③岡野友彦（研究分担者、後掲）  
中世文書調査責任者
- ④山崎 圭（連携研究者、後掲）  
近世文書調査責任者
- ⑤松尾正人（連携研究者、後掲）  
近代文書調査責任者
- ⑥多仁照廣（研究協力者、敦賀短期大学教授）  
民俗調査責任者

#### (2) 作業の内容

- ①山国地域の家々や神社に残された古文書の概要調査・写真撮影・目録取り  
…平成20年度、平成21年度とも、夏と秋の2回現地に出向き、山国神社、山国護国神社、旧鳥居村鳥居家文書、旧鳥居村辻家文書、旧塔村高室家文書、旧広河原村廣瀬家文書等の調査を行った。
- ②山国地域やその周辺地域の民俗調査  
…大堰川上・中流域にあたる広河原（京都市左京区）、黒田・山国・周山（京都市右京区）、日吉・園部・八木（南丹市）、亀岡（亀岡市）の範囲で、今日に伝わる家の由緒や家伝承についての聞き取り調査を行った。

<平成22年度・平成23年度>

#### (1) 研究体制

- ①坂田 聡（研究代表者）  
全体統括者、研究部門総括責任者

- ②藪部寿樹（研究分担者）  
「口宣案」と官途成り研究責任者

- ③岡野友彦（研究分担者）  
公事研究責任者

- ④山崎 圭（連携研究者）  
名主役研究責任者

- ⑤松尾正人（連携研究者）  
山国隊研究責任者

- ⑥西尾正仁（研究協力者、兵庫県立尼崎小田高校教諭）  
「由緒書」と家伝承研究責任者

#### (2) 作業の内容

- ①山国地域の補充調査  
…平成20年度・平成21年度の現地調査にて、調査が完了しなかったものについて、補充調査を実施した。
- ②関連史料のデータベース化と翻刻  
…仮文書目録をもとに、本研究に関連すると思われる史料をピックアップし、仮データベースを作成する作業を進めた。また、これらの史料について、平成20年度・平成21年度の研究体制欄に記した時代別の文書調査班を再結成し、翻刻作業を進めた。
- ③各研究班に分かれての研究  
…(1)の②～⑥に記した各研究班に分かれて、それぞれの研究テーマに関する研究を行った。
- ④研究会の開催と研究成果の統合  
…(1)の②～⑥に記した各研究班の研究成果を総合するために、研究会を開催した。そして、民衆にとって天皇・朝廷とはどのような存在であったか、また、民衆は天皇の権威をいかなる形で利用して、地域社会の秩序を構築したか—という本研究の課題についての議論を深め、⑤に記した結論を導き出した。

#### ⑤本研究の結論

本研究の結論を簡単にまとめると、以下のごとくになる。すなわち、15世紀後半から16世紀にかけて、家産・家名・家業を父から嫡男へと先祖代々継承する、永続性を持った家が農民のレベルでも成立する。そして、この家を基礎単位とする宮座も形成され、宮座の座衆と非座衆の間はもとよりのこと、座衆の内部においても、名主と非名主の間の家格差による身分秩序が形成される。

こうした家格差を維持するために、名主身分の上層農民たちは、中世には朝廷に下級官位を申請し、実際に「口宣案」を受給することで、宮座の場で官途成りを行い、また、近世には天皇家に対し、名主役としての鮎献上や大嘗祭のおりの材木献上などを行うことによって、自らの特権的地位を再確認していた。

明治維新期における山国隊の結成は、上層農民の家が、天皇家との結びつきを誇示することによって、その特権的地位を維持せんとした行動の延長線上でとらえることができる。

一般に、山国隊は中世以来天皇家との結びつきが強かった山国地域の農民たちの、「勤皇」精神のあらわれとみなされている。だが、実際のところ、この山国隊のメンバーの中核は、各村の上層農民たちであり、彼らによって組織された中・下層農民たちも戊辰戦争に参戦したものの、これまでどおり、天皇家との結びつきを誇示することで特権の維持をはからんとする上層農民たちと、自らも天皇家のために働くことで、同様の特権を得ようと欲する中・下層農民たちとの間には、「同床異夢」とでもいうべき意識の違いが存在した。つまり、山国隊の内部には、大きな矛盾が孕まれていたのである。

以上のように、山国荘においては戦国期に永続性をもった家が成立し、村落内身分秩序が家格制の形をとるようになって以降、宮座の中核を担う名主身分の上層農民たちは、自らの特権的な家格を維持せんがために、天皇家との結びつきの強さを強調したのである。

#### ⑥研究成果の公表

…後掲の4に記した方法によって、本研究の成果を公表した。なお、本研究の最終的な研究成果をとりまとめたものとしては、坂田聡・吉岡拓『民衆と天皇』（5の[図書]①）があげられる。

#### 4. 研究成果

2009年12月に、『禁裏領山国荘』（5の[図書]⑤）を刊行し、「口宣案」と官途成り、公事、名主役、山国隊、「由緒書」と家伝承一の各項目について、研究の途中経過にあたる成果を公表した。また、坂田聡、菌部寿樹、吉岡拓（研究協力者、日本学術振興会特別研究員（PD））は、宮座（菌部、坂田）や由緒論（坂田、吉岡）に関する研究成果を単著として刊行した（5の[図書]②③④）。

さらに、本研究の最終的な成果を踏まえ、坂田と吉岡の共著『民衆と天皇』（5の[図書]①）の執筆を進めた（2012年秋に刊行予定）。

なお、本研究において調査を行った古文書は膨大な量に及ぶが、山国神社文書、山国護国神社文書、旧鳥居村鳥居家文書、旧鳥居村辻家文書、旧塔村高室家文書、旧広河原村廣瀬家文書に関しては、仮文書目録を作成した。目下、正式な文書目録を作成すべく、鋭意作業中である。

仮文書目録をもとにして作成した、本研究に関わる史料の仮データベースについても、今後、データの再確認作業と加除修正の作業を行った上で、近い将来に公表する予定である。

文書の翻刻作業の成果に関しては、旧鳥居村の鳥居家文書中の中世文書について、『中央史学』35号の誌上にて、「史料紹介」を行った（5の[雑誌論文]①）。

#### 5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

[雑誌論文]（計2件）

①丹波国山国荘調査団（文責・柳澤 誠（研究協力者、中央大学大学院文学研究科博士後期課程））「史料紹介・丹波国山国荘鳥居家文書の中世文書」、『中央史学』、査読有、35号、2012、Pp185-198

②坂田 聡、

「丹波国山国荘地域の調査をめぐって」、『日本史研究』査読有、593号、2012、Pp72-82

[学会発表]（計1件）

①坂田 聡、吉岡 拓、

「民衆と天皇—丹波国山国地域の事例より—」山国荘研究会  
2011年11月13日、京都府立ゼミナールハウス

[図書]（計5件）

①坂田 聡、吉岡 拓、高志書院、『民衆と天皇』、2012 刊行決定、頁数未定

②坂田 聡、高志書院、『家と村社会の成立』、2011、300

③吉岡 拓、校倉書房、『十九世紀民衆の歴史意識・由緒と天皇』、2011、396

④菌部寿樹、高志書院、『日本の村と宮座』、2010、171

⑤坂田 聡編、高志書院、『禁裏領山国荘』、2009、540

#### 6. 研究組織

(1)研究代表者

坂田 聡 (SAKATA SATOSHI)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：20235154

(2)研究分担者

菌部 寿樹 (SONOBE TOSHIKI)  
米沢女子短期大学・日本史学科・教授  
研究者番号：10202144

(2)研究分担者

岡野 友彦 (OKANO TOMOHIKO)  
皇學館大学・文学部・教授  
研究者番号：40278411

(3)連携研究者

松尾 正人 (MATSUO MASAHIRO)  
中央大学・文学部・教授  
研究者番号：00157265

(3)連携研究者

山崎 圭 (YAMAZAKI KEI)  
中央大学・文学部・准教授  
研究者番号：60311164